



## 第二回 ISO 社会的責任ワーキンググループバンコク総会開催迫る

サルバドールで開催された第一回 ISO 社会的責任ワーキンググループ（以下 ISO/SR WG）総会に続いて、第二回 WG 総会が、9月26～30日にかけてタイのバンコクにおいて開催される予定である。

### 主催国からの歓迎メッセージ

*Mr. Pairoj Sanyadechakul*  
タイ規格協会(TISI) 事務局長

サワディー（こんにちは）。タイ規格協会及び日本工業標準調査会(JISC)を代表して、皆様方をタイの首都であるバンコクに温かくお迎えしたいと思います。地元では天使の都という意味の“Krung Thep”と呼ばれているバンコクは、1782年に王ラーマ一世によって当時のシャムの首都として設立されました。バンコクは、古い文化遺産と新しい近代的な建物が混在し、豪華ホテル、ショッピングセンター、ショッピング街、有名なタイ料理レストラン、スポーツ、娯楽等もありますが、伝統的な魅力を保っています。私は、皆様方が、2005年9月24～30日のISO社会的責任WG総会及び関連行事の間に、機会を見つけてバンコクをよく知っていただき、楽しい思い出とともにタイを去られることを希望します。皆様方全員をバンコクにお迎えする日を楽しみにしています。

松本隆太郎  
日本工業標準調査会(JISC) 事務局長

日本が第二回 ISO 社会的責任 WG 総会をタイと共同主催できることは、大変光栄なことであります。タイと日本の関係は、アジアの隣人としての関係だけではありません；日本の皇室は、友好関係の長い歴史を享受してきました。

最近、日本及びアジア全体の産業界及びすべての利害関係者の間で、社会的責任への関心が非常に高まってきました。したがって、ISOが社会的責任に関する国際規格を開発するのは、今が絶好の時期であり、日本政府は、その作業への協力に努力を惜しみません。

私は、バンコク総会の成功を確信しており、ISO26000が、組織の持続可能性に付加価値を与えるだけでなく、組織に社会との関係を考慮することを促すものになることと信じております。

3月にブラジルのサルバドールで開かれた第一回 ISO/SR WG 総会の後、3つのタスクグループ (TG 1 “資金調達及びステークホルダーエンゲージメント”, TG 2 “コミュニケーション”, TG 3 “運営手順”) 並びに3つの暫定タスクグループ (ITG 4 “ステークホルダーエンゲージメント”, ITG 5 “社会的責任の中心的な背景”, ITG 6 “規格にどのように取り組むか (方法)”) は熱心に作業を行い、それぞれの最初のインプットを WG に提出した。これらのインプットを持ち、第二回 ISO/SR WG 総会がバンコクで開催される。

第一回 ISO/SR WG 総会の成果は、ISO/SR Newsletter 第1号を参照。



## WG 事務局からのメッセージ

*Kristina Sandberg*  
ISO/TMB/WG on SR 事務局

2005年3月のサルバドールでの前回会議以降、サルバドールで設立されたそれぞれのタスクグループ及び暫定タスクグループ内における膨大な量の献身的な作業は印象的なものであり、積極的な議論と進歩が見られました。その結果、我々は、報告書、論点ペーパー及び設計仕様書草案を配布して、意見を求めることができるようになりました。

SR WG 及びそのサブグループは、設立以来二回目の総会を2005年9月26~30日に開く予定です。今回、素晴らしいタイのバンコクでタイ規格協会(TISI)及び日本工業標準調査会(JISC)によって歓迎されることは、我々の喜びとするところです。

第二回総会の目的のなかで、我々が特に合意に達したいと希望する事項は、次の主要論点に関する合意であります。

- －設計仕様書に関する合意
- －規格策定タスクグループの組織に関する合意
- －タスクグループの常設リーダーシップの選任過程に関する合意

WG 総会のほかに、興味のあるすべての WG メンバー及びオブザーバーのために、オンラインワークショップが9月25日に、発展途上国向けの特別ワークショップ(ISO/DEVCO 主催)が9月24-25日に開催されます。両方とも WG 総会と関連して開催するものです。

我々は、バンコク総会が興味深く、生産的で、盛大な会議になることを期待しています。

社会的責任に関する ISO/SR WG の第二回総会及び関連行事の暫定日程表

(8月1日現在)

9月24日 (会議前行事)	社会的責任に関するワークショップー開発途上国 (全日) ーISO/DEVCO 主催
9月25日 (会議前行事)	社会的責任に関するワークショップー開発途上国 (半日) ーISO/DEVCO 主催
	オープンワークショップーすべての WG SR メンバー対象 (半日)
9月26日	開会セレモニー
	SR/WG 総会
	TG, ITG 会議 (半日)
9月27～28日	TG, ITG 会議
9月29日	TG, ITG 会議 (半日)
	SR/WG 総会 (半日)
9月30日	SR/WG 総会


ISO/SR WG 第二回総会は、インターコンチネンタル・バンコクで開かれる。最新情報は、[http://www.tisi.go.th/iso\\_tmb/timetable.html](http://www.tisi.go.th/iso_tmb/timetable.html) を参照ください。

指名された専門家（異なるステークホルダーカテゴリーの代表が ISO 会員団体 1 国当たり最大 6 人，リエゾン団体は組織当り最大 2 人）に加えて，オブザーバーも会議に出席することに留意してください。

すべての専門家・オブザーバーは，各国の関係標準化団体若しくはリエゾン団体が指名した人でなければなりません。

各国の標準化団体は，<http://www.iso.org/iso/en/aboutiso/isomembers/index.html> の“加盟団体”を参照ください。

アフリカは，ISO SR 列車に乗るべく速度を増している！



開発途上国事項に関する ISO 委員会  
(ISO/DEVCO)

発展途上国からの ISO/SR WG への専門家の参加は進んできている。しかしながら，地理的バランスは，未だ達成されておらず，サルバドルには 4 人のアフリカメンバーが出席しただけである。ISO/DEVCO 事務局は，SIDA（スウェーデン国際開発協力庁）と密接に協力し，アフリカにおける社会的責任に関する国際標準化への意識を高め，規格開発過程へアフリカの関与を改善することを目的に，6月30日～7月2日にケニアのナイロビで開かれるアフリカ地域ワークショップに、サハラ以南のアフリカ ISO 会員 10 団体を招待することを決定した。ケニアの 2 つの主催団体，ケニア標準局(KEBS)及びケニア雇用者連盟(FKE)の貢献により，このワークショップは大成功であった。

ワークショップの主な論題は、非常に多くの社会的責任イニシアチブがアフリカで直面している課題に関連して、規格開発過程へのステークホルダーの関与の必要性及びアフリカの影響力を高めるためのアフリカ特定のアクションへの挑戦であった。アフリカ企業市民学会の Daisy Kambelame, ケニアの Charles O. Nyang'uta, ナイジェリアの Veronica Yaji, モーリシャスの Saroj Maistry, 及び南アフリカの Jonathon Hanks による発表に加えて、ISO (Bernardo Calzadilla), SIS フォーラム (Folke Hermanson Snickars) 及び ISO/SR WG (Anders Sköld, TG 1 議長代行, Tom Rotherham, TG3 暫定議長) からの有識者が、それぞれ情報を提供した。SIDA ケニアの長である Maria Stridsman は SIDA 代表として、スウェーデンのグローバル開発における新たな政策及びそのアフリカでの実践について報告した。本ワークショップは、参加者を産業界、政府、消費者、労働者、NGO 及びその他(NSB)といった関係のあるステークホルダーグループに分けて参加者間の対話を促進するという参加型方法論に基づいていた。アフリカでの社会的責任課題に関する討議において、非常に貴重で興味深いアイデア、見解及び意見が交換されたことが注目された。ワークショップは、ISO の地域リエゾン幹事であるモーリシャス標準局の Asraf Caunhye をモデレーターとしたアフリカ特定のアクションに関する議論で締めくくられた。

ISO/SIS/SIDA プロジェクト (各ステークホルダーカテゴリーから 3 人) が後援をしたアフリカの ISO 会員 10 団体の中の 9 団体から出席した 18 人は、産業界、政府、消費者、労働者、NGO 及びその他(NSB)からバランスよく代表が出席した。後援参加者に加え、ケニアからだけでなく、ナイジェリア及び南アフリカからその他多数が参加し、参加者総数は、国際的な専門家を含めて約 50 人に達した。

アフリカ行動計画は、次の事柄に焦点が当てられている。

- － NSB (各国標準化団体) は、ISO/SR WG に国内ミラー委員会を創設する
- － 6 種の各指定ステークホルダーグループを代表した専門家を WG に指名する
- － ケニア、ナイジェリア及び南アフリカから既に WG に登録されている専門家を通して WG 及びタスクグループの情報を共有する
- － 南アフリカがドラフト案を作成するテンプレートに基づき、アフリカの課題についての合同アフリカプレゼンテーションを用意する
- － ISO アフリカ地域リエゾン幹事(Asraf Caunhye)の下に、参加者間のコミュニケーションネットワークを設立する

この地域ワークショップに先立って、ケニア国内ワークショップが開かれたが、その場で KEBS 及び FKE は、ケニアのステークホルダーに ISO の社会的責任標準化プロセスについて説明した。



ISO/DEVCO に関する情報は、<http://www.iso.org/iso/en/aboutiso/isostructure/DEVCO.html> をご参照ください。